太郎事業部長(五六)＝
歩みを強調する。仕
こもらを必ず「さん」
と仕事を教えるスタッ
ーと打ち合わせを重
のユニホームを着る
ってはいけない。た
事は荷物を運ぶだけ
の気持ちもしっかり
ている」

キッザニア東京の街並みは、
現実社会の約3分の2のサイズ
＝いずれも江東区で

TOKYO発

テレワーク

の子どもたちと接続し
たテレワークの様子
ッザニア東京提供

伝統工芸の継承

「リアル」への意識は随所にのぞく。コロナ禍を踏まえ、今年の大型連休は期間限定でテレワーク体験を提供した。自宅にいる子どもたちとキッザニアのスタッフをビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で接続。映像編集ソフトを使い、アニメを作る仕事を遠隔で行った。作品は館内で流した。

人口減少や伝統工芸の継承など地方の抱える課題にも関与してきた。スタッフを地方に派遣。仕事体験プログラムを現地の人と一緒に作る「アウトオブキッザニア」を十年ほど続ける。「地場産業が廃れないよう地元の企業と連携し、自分たちの住んでいる地域の価値を子どもたちに実感してもらう狙いがある」と佐藤さん。東日本大震災に見舞われた岩手県などに派遣を続け、現在も全国から要望が多いという。

常設のパビリオンは少しずつ入れ替わり、時代を映す。家電専門店のブースでは、子どもらが家族構成などに応じてプランを提案する「家電コンシェルジュ」になる。高齢化社会を意識し、系列のキッザニア甲子園（兵庫県）ではケアサポートセンターの介護の仕事体験も加わっている。

社会の仕組みに触れるリアルな体験としては、二〇一二年から、国政選挙のたびに投票箱や政党のポスターの実物を借り、模擬選挙を実施してきた。

「よりリアルに近付けることで、働くってこういうことかと気づいたり、達成感を感じてもらえたりする。親が考えもしなかった子どもの一面が見えたという声もあった。そうした点に評価を頂き、続けてこられた」。スポンサーや来場者に感謝しながら佐藤さんは十五年を振り返った。

岩手県でのアウトオブキッザニア。南部鉄器職人の仕事を体験＝キッザニア東京提供

私の東京物語 6 全10話

土屋 恵一郎

青山 夜のジャズクラブ

青山の骨董通りから入ったところにジャズクラブ「ボディ・アンド・ソウル」があった。最初は六本木交差点に近い「ジャーマン・ベーカリー」の二階にあった。ジャズを聴きたくなるとこの店に行った。夜も零時を過ぎると、あちこちからジャズマンがやってきて即興のジャムセッションになる。

私は本の中で異なる者たちの集い方として「ジャムセッション」という言葉を使ったことがあるが、その実際の姿はボディ・アンド・ソウルにあった。

その後、店は青山の紀ノ国屋スーパーの裏に短期間移転し、骨董通りの裏路地に移った。私の夜はジャズクラブの移動とともに東京を徘徊した。

ところが、ある日行ってみると、店の前の路地が消え、広い自動車道になっていた。青山のまんなかにこんな道が突然できて、違和感があった。東京がこんなに変わっていいのか。そう思っていたら、今度は渋谷のパルコ近くに移った。

オーナーマダムの関京子さんは四十年前の六本木の時から変わることなくスレンダーで華やかで知的だ。東京の変化の中で一軒のジャズクラブが東京を語り続けている。

表参道は能の勉強の場所でもあった。表参道交差点から根津美術館に行く通りに「銕仙会」という能舞台があった。そこで観世寿夫という天才的能楽師に出会い、私の人生は大きく変わった。銕仙会の前に「コムデギャルソン」の店ができた。「ヨックモック」のカフェもある。好きな場所なのだ。

（明治大前学長）

南青山にある銕仙会の能舞台。約200人が収容できる

運勢

松風庵主

23日（赤口）

ね 性格が違う者同士が組みて仕事を為すに良し。尊敬を忘れるな

うし 取る事よりも捨てる事多ければ吉運は到来する

とら 快笑して喜び溢れる。客人多くして商売繁盛

う 姿や形はどうであれ道義に適っていれば躍進あり

たつ 我が袖に知らぬ間に珍宝あり。吉事到来する日

み 根性だけでは乗り越えられぬが、最後の最後に差として表れる

うま 何の言い訳もするな。虚心坦懐で通じる

ひつじ 庭園の松竹梅が鮮やかに映える。芸事に良き日

さる 疑わしい時には差し控えて慎重にせよ。無理をすれば損害多し

とり 言葉が鋭い者は心和楽なる者なり。有難く聞いて発展あり

いぬ 相手の心を見るにはまず立ち止まって相手の目を見て話すべし。されば百事如意なり

い 外出して盗難に遇う。よそ見せ